

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど

会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）

Eメール：jicasvob@kme.biglobe.ne.jp



赴任国 (講師名)	「タイトル」 講演概要
第71回 7月20日 (水) ボリビア (森 妙子)	 <p>「南米のヘソ・ボリビアで頑張る日系人たち、そしてボリビアの今」 移住というとブラジル・アルゼンチンなどと言われる。どっこいボリビアでも日系人が頑張っている。歴史は古く110周年を祝った。戦後も次々と入植。艱難辛苦を乗り越えて、今ではボリビアの農業を支え、周囲のよき手本となっている。そして今、ボリビアはリチウムの埋蔵量世界一と注目され、今後日本との関係も強化されていくだろう。そんなボリビアの今も伝えたい。</p>
第72回 8月17日 (水) ラオス (中村真一)	 <p>「ラオス人の生活と首都ビエンチャン市の水道事情ほか」 東南アジアで唯一の内陸国ラオスは、ほぼ本州の広さの国土に612万人が暮らしている。メコン川からの恵みを受け、ゆったり流れる生活時間は数十年前の日本のような懐かしささを感じる。ぜひ一度は訪ねてください。他に「シリア」の水道についても少し触れます。</p>
第73回 9月21日 (水) シリア (桑田和幸)	 <p>「シリアでの品質改善活動を通じて」 シリアの第2都市アレppoでの工業会議所をベースに“品質”を広義に捉え組織的な改善活動を心がけた。オープンでフェアな取組み、全員参加の考え更に成果を共有する等はこれからの課題と言える。日本への強い親近感の中、今後も間接的なサポートをSV経験者の協力を得ながら継続して行く様にしたい。</p>
第74回 10月19日 (水) インドネシア (佐名木規夫)	 <p>「産業の島バタムの大学・ポリテクと企業連携」 インドネシアで日系企業が最も多く進出しているバタム島のポリテクバタムに派遣され、主に日系企業との連携活動を中心にカリキュラム改革・開発等、JICAのシニアボランティア活動のお話をします。</p>
第75回 11月16日 (水) ボリビア (仲平四郎)	 <p>「活動の有り様はすべて自分次第」 アジア圏のスリランカでのSV活動に感動し、その後西語圏の南米を希望しボリビアに行けた。異国土、異文化の中で活動し、人生の豊かな生き方とは何かを考えさせられた。他人のために生かされていると思って活動すると思わぬ運命が展開した。その後の生き方も変わった。</p>